

# 【解説】 発達障害のある方の 就業実態調査 2023年度版

2024年3月18日 速報版

報告者：筑波大学人間系准教授 佐々木銀河

E-mail: [sgalaxy@human.tsukuba.ac.jp](mailto:sgalaxy@human.tsukuba.ac.jp)



# これまでの就業実態調査



## 2017年度～2021年度まで：Kaienによる実施

- <https://www.kaien-lab.com/tag/%E5%B0%B1%E6%A5%AD%E5%AE%9F%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB/>

## 2022年度から筑波大学とKaienの共同研究で実施

- 大学が協働することでのメリット
  - 発達障害のある方の就業実態を学術的により精緻に調査できる
  - 大学を基点にて、競合関係にある他事業所とも協力した実態調査ができる など
- 各年度で「調査テーマ」を設定
  - **2023年度は「発達障害のある就業者の読み書き困難」をテーマとした**
- 調査項目の設計などを協働して実施→筑波大学で分析
  - **公益性が高く、速やかに示した方が良いような結果はWEB公開 ※今回**
  - 学術的に精緻な検証が必要な内容は、学会発表や学術論文で根拠（エビデンス）を示す（発表までは非公開）



# 2023年度の調査計画

調査期間：2023年12月25日～2024年1月31日

調査方法：WEB調査（Google Form）

## 調査依頼方法

- 筑波大学から就労支援関係の各事業所や親の会等に機縁法で依頼
- KaienからWEBでの周知および自事業関係各所への依頼

## 調査内容の設計

1. 研究者で原案を作成
  - 特定の事業所に特化した項目はなるべく取り除いた
  - 回答結果の信頼性の担保のため、アテンションチェック項目を加えた
2. Kaien従業員・利用者等に予備調査を実施し、質問項目を修正
3. 筑波大学人間系研究倫理委員会の審査・承認を得て実施



# 2023年度の調査計画

## 調査目的

- 発達障害のある就業者を対象として、読み書きに関する現在とこれまでの困難感、職場での状況などを調査し、読み書き支援ニーズと職場適応の関連を検討する
  - 今回の公開内容
- 障害のない就業者と発達障害のある就業者の比較
  - 学術的研究として学会発表や論文投稿を予定（現時点で非公開）

## 対象者

- 18歳以上で発達障害の診断や傾向があり、現在、就業中の方
  - 「診断あり」と「診断なし+傾向あり」は分ける（主に診断ありで分析）



# 調査項目

**A：フェイスシート** — 年齢、性別、居住都道府県、最終学歴、障害者手帳の有無

**B：発達障害の状況**

- 発達障害の診断や傾向の有無、診断や傾向の名称、診断や傾向が判明した年齢とタイミング、自分で特性に気づいた年齢、他の障害や疾患

**C：就業の状況**

- 就業形態、特例子会社の有無、自宅での就業の有無、仕事開始年齢、転職回数、業種、業務内容、1週間あたりの勤務時間、年収、文字の読み書きが求められる割合、職場の合理的配慮、今後「働き続けたい」か

**D：現在の仕事における読み書き困難の状況**

**E：就職活動や採用選考における読み書き困難の状況**

**F：HRMチェックリスト\_組織コミットメント**（労働政策研究・研修機構，2014）

**G：読み書き支援ニーズ尺度**（RaWSN：高橋・三谷，2022）

- 大学生学修困難尺度（LDSP28） ※就業者に合わせて軽微な項目改変して「現在」の状況を評価
- 小学生時代の学習困難尺度（SCLD41）

**H：就業前の読み書きに関する特別な支援の状況**



# 調査項目

## HRMチェックリスト\_組織コミットメント

- 労働政策研究・研修機構（2014）
  - <https://www.jil.go.jp/institute/siryu/2014/134.html>
- 組織に留まる状態を作り出す要素を評価。離職や退職の予測と関連
- A「残留・意欲」
  - 今の会社や組織に残りたい、留まりたい、など
- B「情緒的コミットメント」
  - その会社や組織のメンバーであることを誇りに思う、など
- C「存続的コミットメント」
  - その会社や組織を去ると失うものが多い、など
- D「規範的コミットメント」
  - 恩義や罪悪感などから、その会社や組織に留まるべきと思う、など



# 調査項目

## 読み書き支援ニーズ尺度

- RaWSN (Reading and Writing Support Needs Scale)
- 高橋知音・三谷絵音 (2022) 読み書き困難の支援につなげる大学生の読字・書字アセスメント: 読字・書字課題 RaWF と読み書き支援ニーズ尺度 RaWSN 金子書房
  - <https://www.kanekoshobo.co.jp/book/b596806.html>
- SLDやディスレクシアのある人が子ども時代に体験しやすいこと、成人期に体験しやすいことを項目化
  - 「あてはまる」～「あてはまらない」の4件法で回答

## 大学生学修困難尺度 (LDSP28)

- 就業者に合わせて軽微な項目改変 **(就業者の「現在」に焦点)**

## 小学生時代の学習困難尺度 (SCLD41)



# 大学生学修困難尺度（LDSP28）

（高橋・三谷，2022）

下位尺度	概要
読解苦手	読んで理解することに困難を感じており，読むことに対する苦手意識が強い。読解力に加え、全般的知的能力，言語能力全般，語彙量，読解方略，読字、注意機能の問題などの影響も考えられる。
聴覚処理の弱さ・不注意	聴覚情報を正しく聞きとって理解することに困難を感じている。聴覚情報処理障害（APD）を含む聴覚障害、注意・記憶の問題が考えられる。
読字困難	仮名文字，漢字問わず読み間違いを多く経験し，文字から音への変換過程であるデコーディングに困難を感じている。背景要因として視覚情報処理の問題がある場合と，音韻処理の問題がある場合が考えられる。
書字・書き取り苦手	読みやすい字を書くことが難しく，文字を書くことに苦手意識があり，ノートを取ることも苦手。協調運動の問題（不器用さ）、視覚情報処理の問題、聴覚情報処理の弱さや注意資源の配分の難しさなどが考えられる。
記憶・学習苦手	言葉や漢字が覚えられない，思い出せないといった記憶，学習の困難がある。





# 小学生時代の学習困難尺度（SCLD41）

（高橋・三谷，2022）

下位尺度	概要
読解苦手	小学生時代に読んで理解することに困難を感じていて、読むことに対する苦手意識を持っていたと考えられる。その傾向は大学生の現在も継続していて、実際に読む速さが遅めである可能性が高い。
漢字学習困難	小学生時代に漢字の習得に困難を感じていた。視覚情報処理の問題、視覚的記憶の問題、不注意といった、全般的な認知機能、言語をどう文字で表記するかに関するルールである正書法に関する機能の問題が考えられる。
文字の視覚処理エラー	形が似た文字の読み間違いや書き間違いが多かった。視空間認知を中心とした視覚情報処理や、視覚的注意の弱さ、視機能、視覚的注意の問題。
読み書きルール（正書法）学習困難	仮名文字の特殊表記（促音，拗音，長音など）や助詞の表記の誤り，漢字の読みの困難を多く経験していた。言語表記における例外的ルール（仮名の特殊表記、漢字の読みなど）の学習困難、習得できたとしても、その処理を自動化することが難しいと考えられる



# 小学生時代の学習困難尺度 (SCLD41)

(高橋・三谷, 2022)

下位尺度	概要
記憶・聴覚的注意	記憶の弱さや聴覚的注意に関する困難があった。日常生活における記憶の弱さや、気の散りやすさの問題なども含む。
説明苦手	考えを整理して口頭または文章でわかりやすく伝えること、説明することに苦手意識を持っていた。
書き取り苦手	授業で聞いたことや板書を書き取ること、ノートテイクに苦手意識を持っていた。不器用さも含む書字レベルの問題、視覚関連の機能、注意機能、聴覚情報処理の問題、漢字学習の問題、ワーキングメモリの問題、思考の整理の問題などが考えられる。
書字困難	きれいな文字、揃った文字を書くことが困難だった。言語能力というよりは視機能、視覚情報処理、協調運動の問題が考えられる。
計算苦手	計算、算数の苦手さがあった。数概念の弱さや計算の弱さに加え、ワーキングメモリーや記憶・学習全般の弱さが考えられる。



# 有効回答数

- 全回答データ1285件のうち、以下を除いた808件（人）
  - 就業状況の項目以前で入力が終了している回答
  - 研究データ利用への同意がない回答
  - 入力事項の重複が見られ同一人物と推測される回答
  - ランダムで実施した本人確認で反応がなかった回答
  - 条件を満たさない回答（発達障害なし、就業経験なし、18歳未満）
- 以降は、808名のデータについて分析結果を示します



# 記述統計：回答者の属性（全数：808人）

性別		人数 (%)	
男性	405	(51.5%)	
女性	377	(47.9%)	
その他	5	(0.6%)	

地域		人数 (%)	
都市部	611	(75.8%)	
地方	195	(24.2%)	

最終学歴		人数 (%)	
中等教育	192	(23.9%)	
大学以外の高等教育	163	(20.3%)	
大卒以上	448	(55.8%)	

発達障害の医学的診断		人数 (%)	
診断あり	675	(83.5%)	
診断なし+傾向の指摘	133	(16.5%)	

精神疾患の診断の併存		人数 (%)	
精神疾患の診断あり	437	(56.8%)	
なし	330	(43.2%)	

発達障害に関わる診断名（分母：診断あり675人）		人数 (%)	
ASD（自閉スペクトラム症）	462	(68.4%)	
ADHD（注意欠如多動症）	363	(53.8%)	
<b>LD/SLD（学習障害/限局性学習症）</b>	<b>40</b>	<b>(5.9%)</b>	
DCD（発達性協調運動症）	17	(2.5%)	
ID（知的障害/知的発達症）	15	(2.2%)	

障害者手帳		人数 (%)	
精神障害者保健福祉手帳	598	(74.0%)	
療育手帳	20	(2.5%)	
身体障害者手帳	39	(4.8%)	
障害者手帳所持なし	134	(16.6%)	

診断を受けたタイミング		人数 (%)	
就業する前	296	(45.3%)	
就業中	207	(31.8%)	
離職した後	150	(23.0%)	

「LD/SLD」のみ診断を受ける方は11人  
（他の障害の重複が72.5%）



# 記述統計：就労状況（発達障害診断あり：675人）

雇用形態		人数	(%)
正社員		234	(34.7%)
パート・契約社員、派遣社員		392	(58.1%)
自営・家事手伝い、内職		21	(3.1%)
就労継続支援		25	(3.7%)
その他		3	(0.4%)

業種（上位5件）		人数	(%)
情報通信業		114	(17.3%)
製造業		106	(16.1%)
サービス業		59	(8.9%)
学術研究、専門・技術サービス業		57	(8.6%)
卸売業・小売業		39	(5.9%)

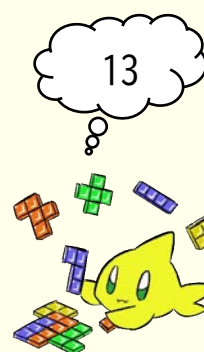
特例子会社での就労		人数	(%)
特例子会社での就労		72	(11.1%)
非該当		578	(88.9%)

業務内容（上位5件）		人数	(%)
事務的職業		295	(44.6%)
研究・技術の職業		75	(11.3%)
製造・修理・塗装・製図等の職業		57	(8.6%)
法務・経営・文化芸術等の専門的職業		55	(8.3%)
運搬・清掃・包装・選別等の職業		36	(5.4%)

自宅での就業		人数	(%)
自宅での就業		105	(16.1%)
非該当		549	(83.9%)

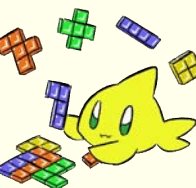
職場での合理的配慮		人数	(%)
合理的配慮あり		371	(58.0%)
なし		269	(42.0%)

発達障害の開示		人数	(%)
開示あり		518	(82.0%)
開示していない		114	(18.0%)



# 記述統計：属性・就労状況（発達障害診断あり：675人）

項目	件数(N)	平均値(標準偏差)	中央値	範囲
年齢	653	36.51 歳 (9.08)	35 歳	19 - 61
発達障害の診断を最初に受けた年齢	597	25.53 歳 (11.73)	25 歳	2 - 57
現在の仕事を始めた時の年齢	627	32.37 歳 (8.72)	31 歳	17 - 59
発達障害診断から現在までの経過年数	593	11.19 年 (9.04)	9 年	0 - 39
現在の仕事に至るまでの転職回数	656	3.66 回 (5.15)	2 回	0 - 33
現在の仕事における勤続年数	619	4.15 年 (5.16)	2 年	0 - 34
1週間あたりの勤務時間	624	34.00 時間 (12.80)	40 時間	0 - 80
年収	584	249.04 万円 (157.75)	220 万円	1 - 1200



# Q & A形式でみる 発達障害者の就労と読み書き困難



# 今回の報告の留意点

## 留意点

- 今回、調査にご回答いただいた集団の概要を表しています
  - 調査に回答してない方（言語が苦手な方など）には言及できません
  - もし回答内容に間違いがあっても、その内容を反映しています
- 結果は、各質問項目の統計的な関係を説明しています
  - 結果には誤差が出てきますので、同じ調査を2回やっても結果が変わることがあります
  - 全員がこの結果の通りではなく、確率的に高い、という意味です
  - 「●だから▲に必ずなる」というように、絶対にそうである、というわけではありません。例外はもちろんあります
  - 個人差を十分に考慮できているわけではありません
  - 調査されていない別の要因が複雑にからみあっている場合もあります





## Q&A もくじ

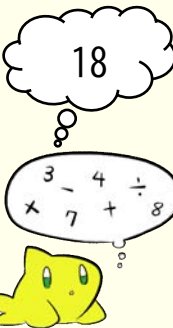
- Q1 : 現在の年齢と診断年齢に関係はあるか？
- Q2 : LD/SLDの診断を受けた方の状況は？
- Q3 : LD/SLDの診断はないが、読み書きで困ることは？
- Q4 : 診断別に読み書き支援ニーズはどう異なるか？
- Q5 : 仕事上の読み書き困難にどう対応しているか？
- Q6 : 就職活動や採用面接での困難は？
- Q7 : 職種によって読み書きの困難は違う？
- Q8 : 読み書き支援ニーズと職場適応の関連は？



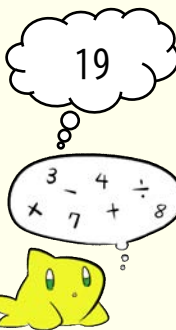
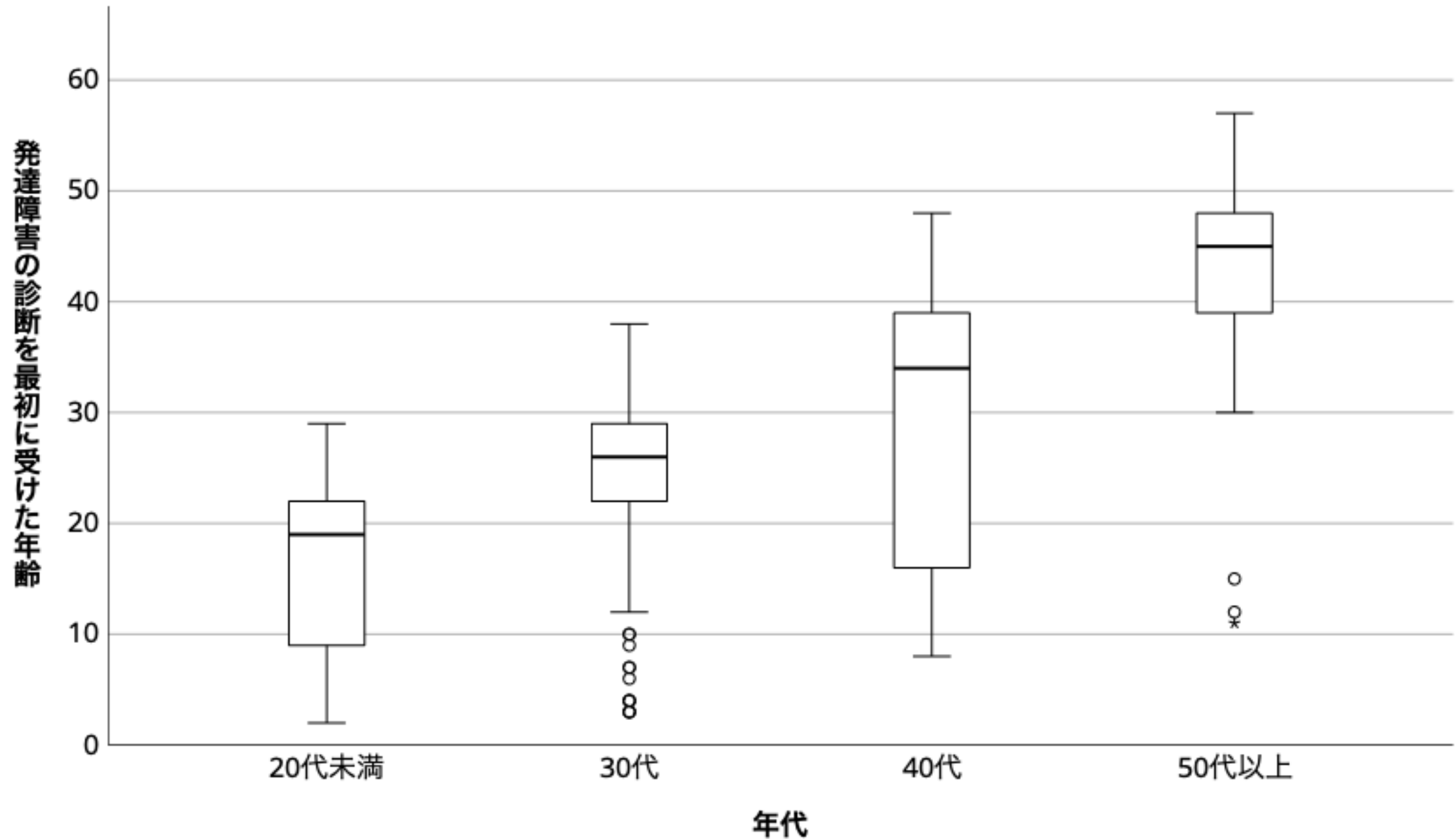
# Q1：現在の年齢と診断年齢に関係はあるか？

項目	人数(構成比)	平均値(標準偏差)
20代未満 - 診断年齢	149 (25.1%)	16.13 歳 (7.62)
30代 - 診断年齢	213 (35.9%)	24.70 歳 (7.30)
40代 - 診断年齢	173 (29.1%)	29.01 歳 (11.88)
50代以上 - 診断年齢	59 (9.9%)	42.44 歳 (9.37)
LD/SLDの診断あり - 診断年齢	38 (6.4%)	22.71 歳 (11.68)
なし - 診断年齢	559 (93.6%)	25.72 歳 (12.21)

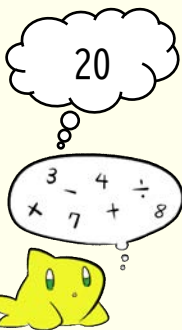
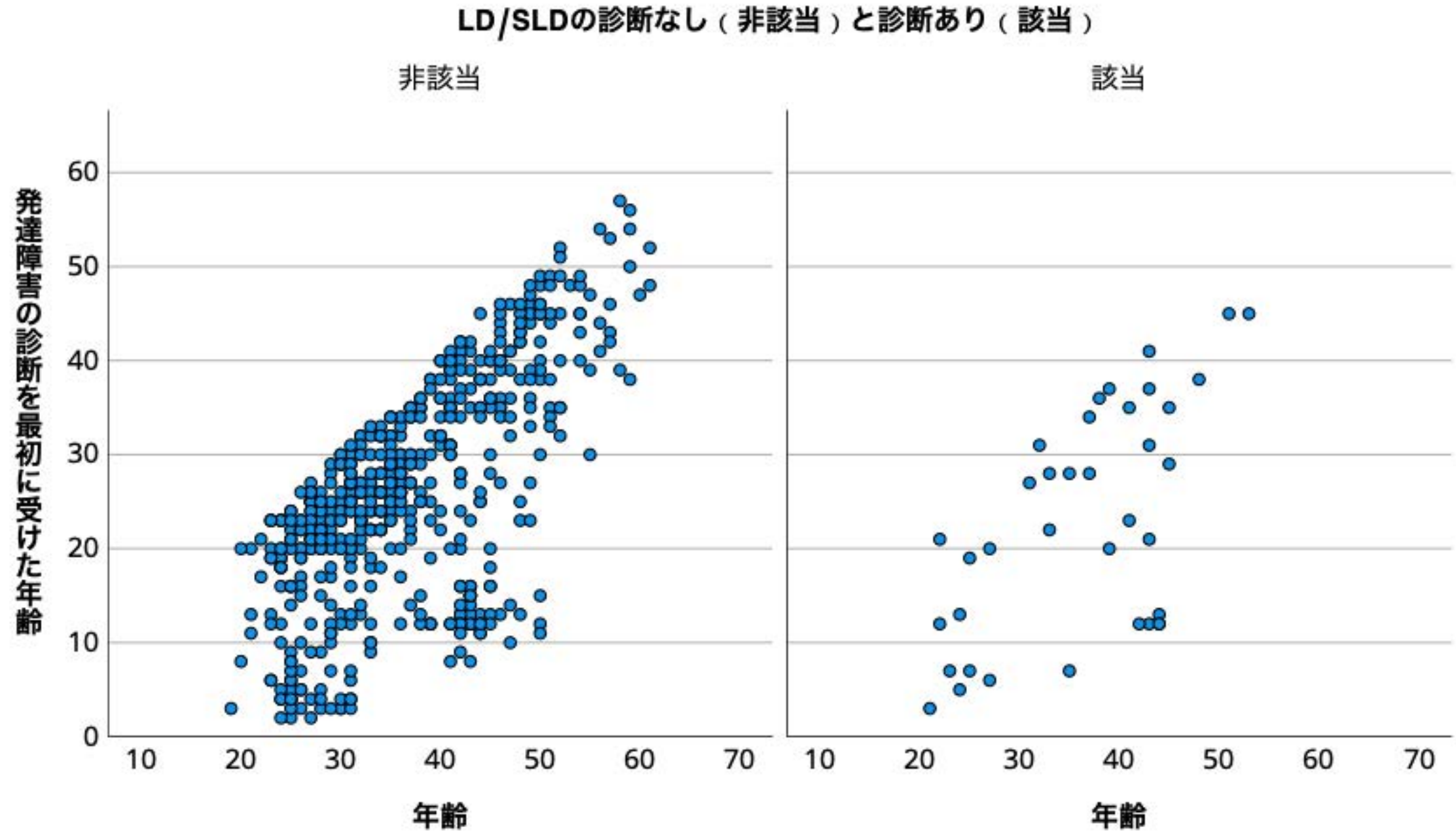
- 年代が上がるごとに発達障害を最初に診断される年齢も増加傾向にあります
  - ・ 40代以降は、診断年齢にもばらつきが大きくなります
- LD/SLDの診断を受けている就業者と診断を受けていない就業者では、最初に発達障害を診断された年齢に顕著な差は見られませんでした
- 現在の年齢と読み書き支援ニーズに統計的に意味のある関連（相関）はありませんでした



# Q1：現在の年齢と診断年齢に関係はあるか？



# Q1：現在の年齢と診断年齢に関係はあるか？



## Q2：LD/SLDの診断を受けた方(40人)の状況は？

### 診断の有無で統計的に意味のある差があるところ

- LD/SLDの診断のある人は「**障害者手帳**」の所持者の割合が多い
- LD/SLDの診断のある人は「**大卒以上**」では少なく、**短大や高等専門学校、専門学校など「大学以外の高等教育機関」**を卒業した割合が多い
- LD/SLDの診断のある人は、**小学校など「初等教育段階」**で診断を受けた割合が多く、**大学など「就業前の高等教育段階」**で診断を受けた割合は少ない
- LD/SLDの診断のある人には、**デザイナー、通訳、編集者など「法務・経営・文化・芸術等の専門的職業」**に就く割合が多い
- LD/SLDの診断のある人は「**働く前に読み書きに関する特別な支援**」を受けていた割合が多い



## Q2 : LD/SLDの診断を受けた方(40人)の状況は？

項目	人数(構成比)
LD/SLDの診断あり - 障害者手帳あり	40 (6.7%)
LD/SLDの診断あり - なし	0 (0.0%)
LD/SLDの診断あり - 中等教育機関卒	12 (7.8%)
LD/SLDの診断あり - 大学以外の高等教育機関卒	13 (9.7%)
LD/SLDの診断あり - 大卒以上	15 (3.9%)
LD/SLDの診断あり - 診断：初等教育段階	9 (17.3%)
LD/SLDの診断あり - 診断：中等教育段階	6 (8.5%)
LD/SLDの診断あり - 診断：就業前の高等教育段階	1 (1.0%)
LD/SLDの診断あり - 診断：就業時	10 (4.8%)
LD/SLDの診断あり - 法務・経営・文化芸術等の専門的職業	8 (14.5%)
LD/SLDの診断あり - 事務的職業	14 (4.7%)
LD/SLDの診断あり - 読み書きに関する特別支援あり	32 (15.0%)
LD/SLDの診断あり - なし	6 (5.3%)



## Q3：LD/SLDの診断はないが、読み書きで困ることは？

### 発達障害のある就業者のうち、、、

- 仕事で読み書き困難を感じる割合は **24.7** % (160人)
- LD/SLDの診断のある人の割合は **5.9** % (40人)

### 仕事で読み書き困難を感じる方の傾向

- 「LD/SLD」や「ADHD」の診断を受けている方が多い
- 「事務的職業」に就いている方が多く、「医療・看護・保健の職業」や「製造・修理・塗装・製図等の職業」に就いている方は少ない
- 読み書き困難への合理的配慮を受けている割合は21.2%



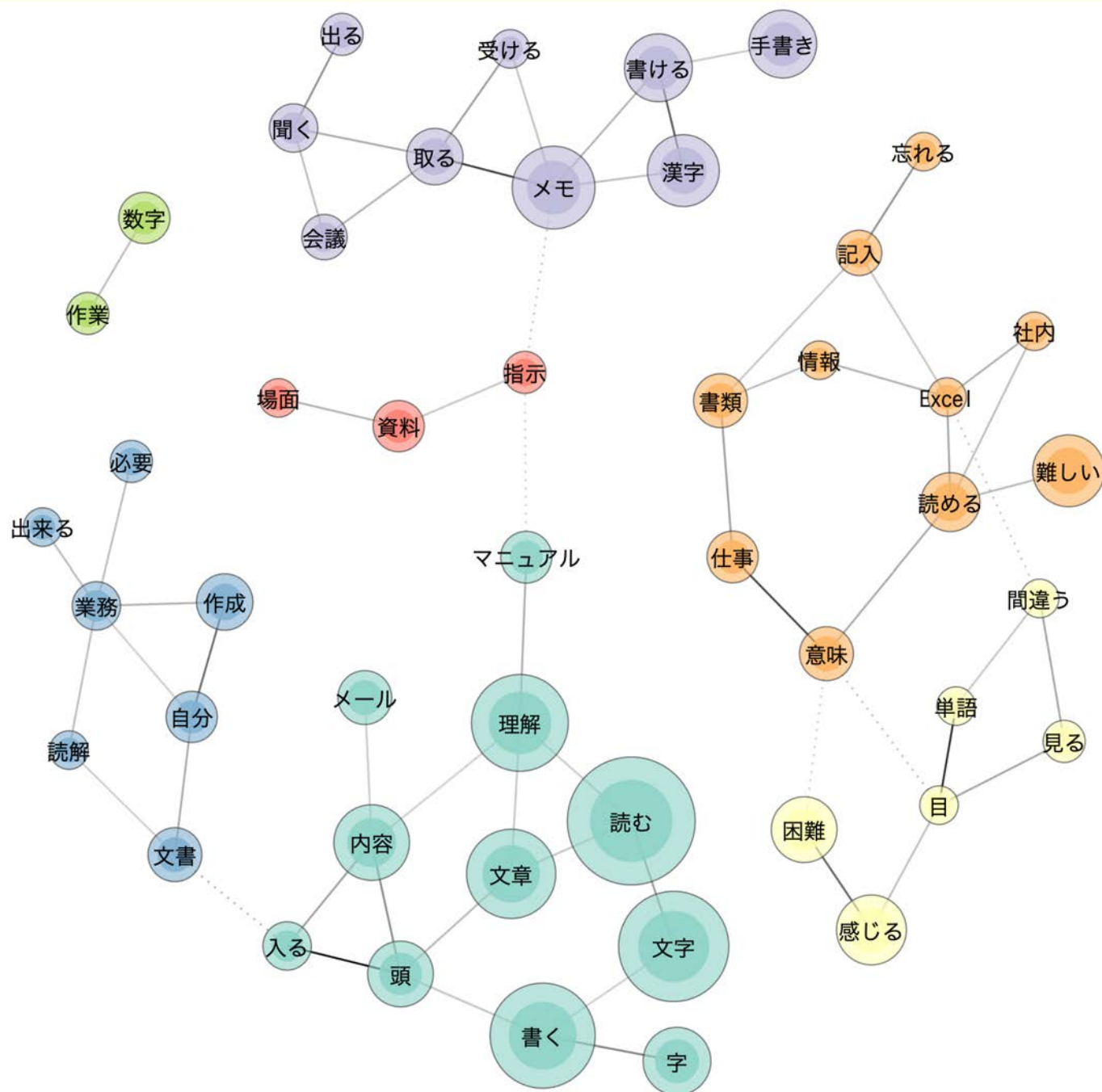
# Q3 : LD/SLDの診断はないが、読み書きで困ることは？

項目	人数(構成比)
仕事で読み書き困難あり - LD/SLDあり	16 (40.0%)
仕事で読み書き困難あり - ADHDあり	109 (30.5%)
仕事で読み書き困難あり - ASDあり	102 (22.8%)
仕事で読み書き困難あり - 事務的職業	84 (29.1%)
仕事で読み書き困難あり - 法務・経営・文化芸術等の専門的職業	17 (30.9%)
仕事で読み書き困難あり - 医療・看護・保健の職業	1 (4.3%)
仕事で読み書き困難あり - 製造・修理・塗装・製図等の職業	3 (5.5%)
仕事で読み書き困難あり - 読み書き困難への合理的配慮あり	31 (21.2%)
仕事で読み書き困難あり - なし	119 (78.8%)





# Q3 : LD/SLDの診断はないが、読み書きで困ることは？



## 読み書き困難の詳細(162件)

### ●仕事で長文を読むこと

「文字が読めて言葉がわかって、意味の認識に時間がかかる、内容が頭に入らない」

「マニュアルやある程度の分量がある文章から手順を学ぶことが難しい」

「文字を読む際に目が滑る」

### ●メモをとること

「会議内容のメモを取るのが難しい」

「誤った内容を書いてしまう」

「自分で書いた文字が読めない」

### ●漢字が苦手

「漢字を書く時に思い出せない、書けない」

### ●文章、資料作成が苦手

「他の人にわかる文章や資料が作成できない」

### ●数字の間違ひがある

「数字を確認したり、修正するのが難しい」

「数字の桁を間違える」

### ●エクセルの使用が難しい

「エクセルの文字やセルの読み取りが難しい」



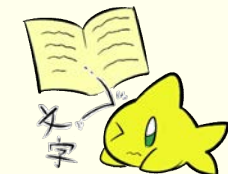
# Q4：診断別に読み書き支援ニーズはどう異なるか？

診断分類	LDSP28（現在の学習困難）					合計得点
	平均値（標準偏差）					
	A：読解苦手	B：聴覚処理の弱さ・不注意	C：読字困難	D：書字・書き取り苦手	E：記憶・学習苦手	
ASD 409人	2.29 (0.82)	2.85 (0.70)	1.53 (0.58)	2.33 (0.83)	2.49 (0.78)	2.28 (0.56)
ADHD 310人	2.31 (0.82)	2.95 (0.68)	1.53 (0.58)	2.47 (0.83)	2.68 (0.77)	2.36 (0.53)
LD/SLD 33人	2.63 (0.85)	2.89 (0.78)	1.99 (0.73)	2.69 (0.76)	2.80 (0.74)	2.58 (0.55)
DCD 11人	2.37 (0.81)	2.88 (0.66)	1.68 (0.61)	2.70 (0.61)	2.63 (0.85)	2.43 (0.41)
ID 7人	2.73 (0.56)	2.76 (0.54)	2.04 (0.65)	2.74 (0.62)	3.18 (0.57)	2.66 (0.28)
大学生 標準化データ	2.46 (0.66)	2.34 (0.67)	1.47 (0.46)	2.05 (0.68)	2.32 (0.72)	

※黄色ハイライトは、大学生標準化データの平均値よりも高いことを示す

※赤色ハイライト+太字は、大学生標準化データの85パーセンタイル値よりも高いことを示す

※診断名は、他の発達障害が併存する場合を含む



# Q4：診断別に読み書き支援ニーズはどう異なるか？

診断分類		SCLD41（小学生時代の学修困難） 平均値（標準偏差）									
		A：読解 苦手	B：漢字 学習困難	C：文字の 視覚処理 エラー	D：読み書 きルール 学習困難	E：記憶・ 聴覚的注 意の弱さ	F：説明 苦手	G：書き 取り苦手	H：書字 困難	I：計算 苦手	合計得点
ASD	402人	2.04 (0.88)	1.93 (0.84)	1.27 (0.48)	1.44 (0.61)	<b>2.63</b> (0.77)	3.13 (0.84)	2.31 (0.98)	2.38 (1.01)	1.97 (0.85)	2.04 (0.58)
ADHD	305人	2.06 (0.90)	2.08 (0.92)	1.29 (0.50)	1.53 (0.68)	<b>2.81</b> (0.75)	3.15 (0.82)	2.54 (1.01)	2.58 (1.04)	2.15 (0.86)	2.15 (0.59)
LD/SLD	30人	2.51 (1.07)	2.47 (0.99)	1.66 (0.70)	2.02 (0.93)	<b>3.03</b> (0.81)	3.26 (0.92)	2.91 (0.99)	2.72 (1.01)	2.69 (0.97)	2.51 (0.68)
DCD	11人	2.01 (0.79)	2.08 (0.81)	1.57 (0.57)	1.84 (0.70)	<b>2.62</b> (0.87)	3.24 (0.78)	2.52 (0.97)	2.85 (0.70)	2.61 (1.09)	2.26 (0.57)
ID	9人	2.92 (0.71)	2.80 (0.98)	2.64 (0.92)	3.00 (0.72)	<b>3.11</b> (0.68)	3.52 (0.65)	2.96 (0.70)	2.93 (1.15)	2.81 (0.91)	2.95 (0.61)
大学生 標準化データ		2.06 (0.77)	1.88 (0.81)	1.18 (0.39)	1.45 (0.55)	1.91 (0.67)	2.84 (0.80)	1.75 (0.84)	2.35 (0.96)	1.78 (0.72)	

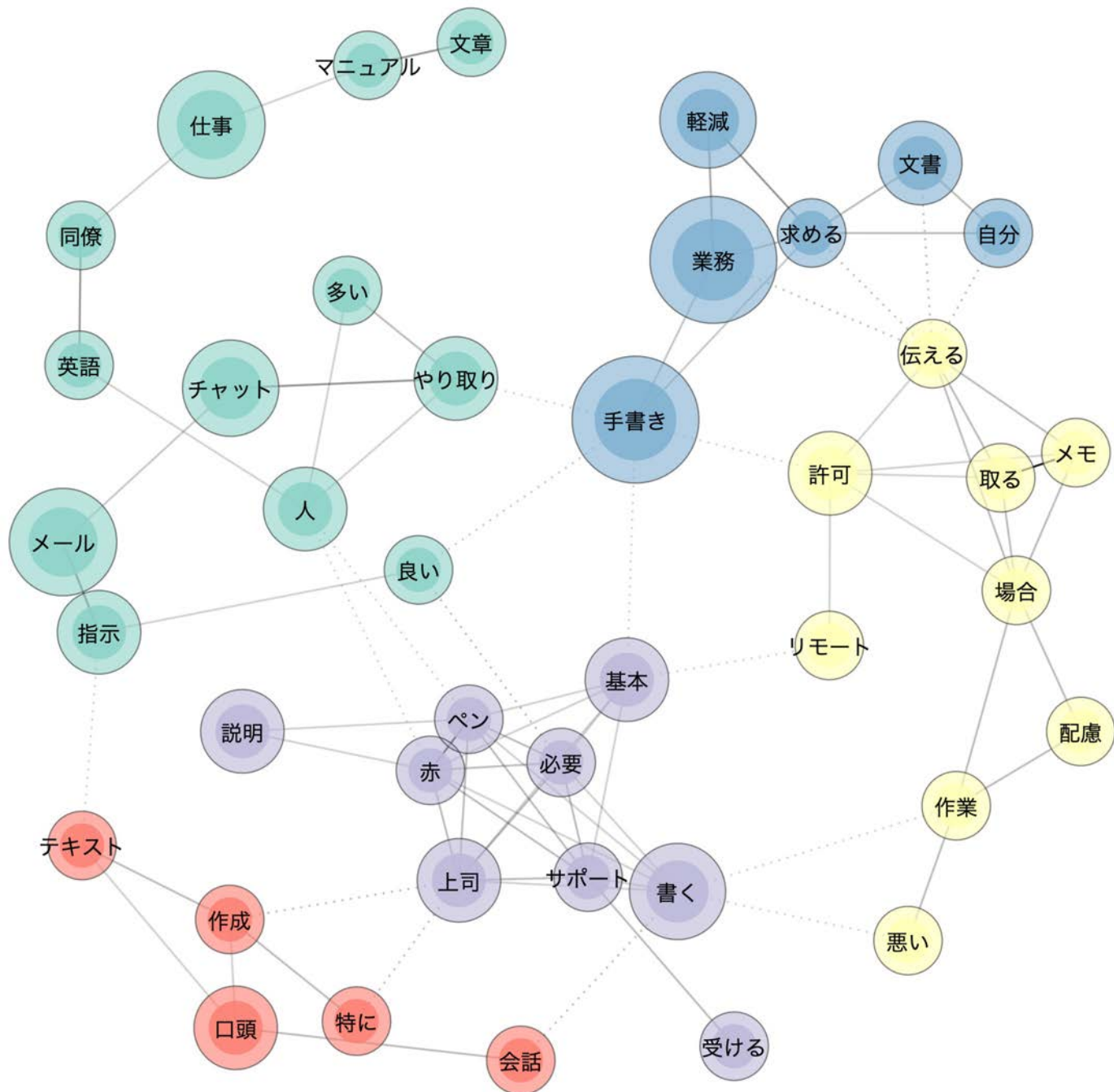
※黄色ハイライトは、大学生標準化データの平均値よりも高いことを示す

※赤色ハイライト+太字は、大学生標準化データの85パーセンタイル値よりも高いことを示す

※診断名は、他の発達障害が併存する場合を含む



# Q5：仕事上の読み書き困難にどう対応しているか？



## 読み書き困難の合理的配慮(41件)

### ●仕事の役割分担

「同僚が読み書きに関わる仕事をして、自分は読み書きが少ない仕事にしてもらう」

### ●チャットやメールの活用

「口頭だけでなく、チャットで業務指示ややり取りをする」

「できる限り、メールでも指示してもらう」

### ●手書きが求められる業務の軽減や代替

「手書きをしなくてもよくしてもらう」

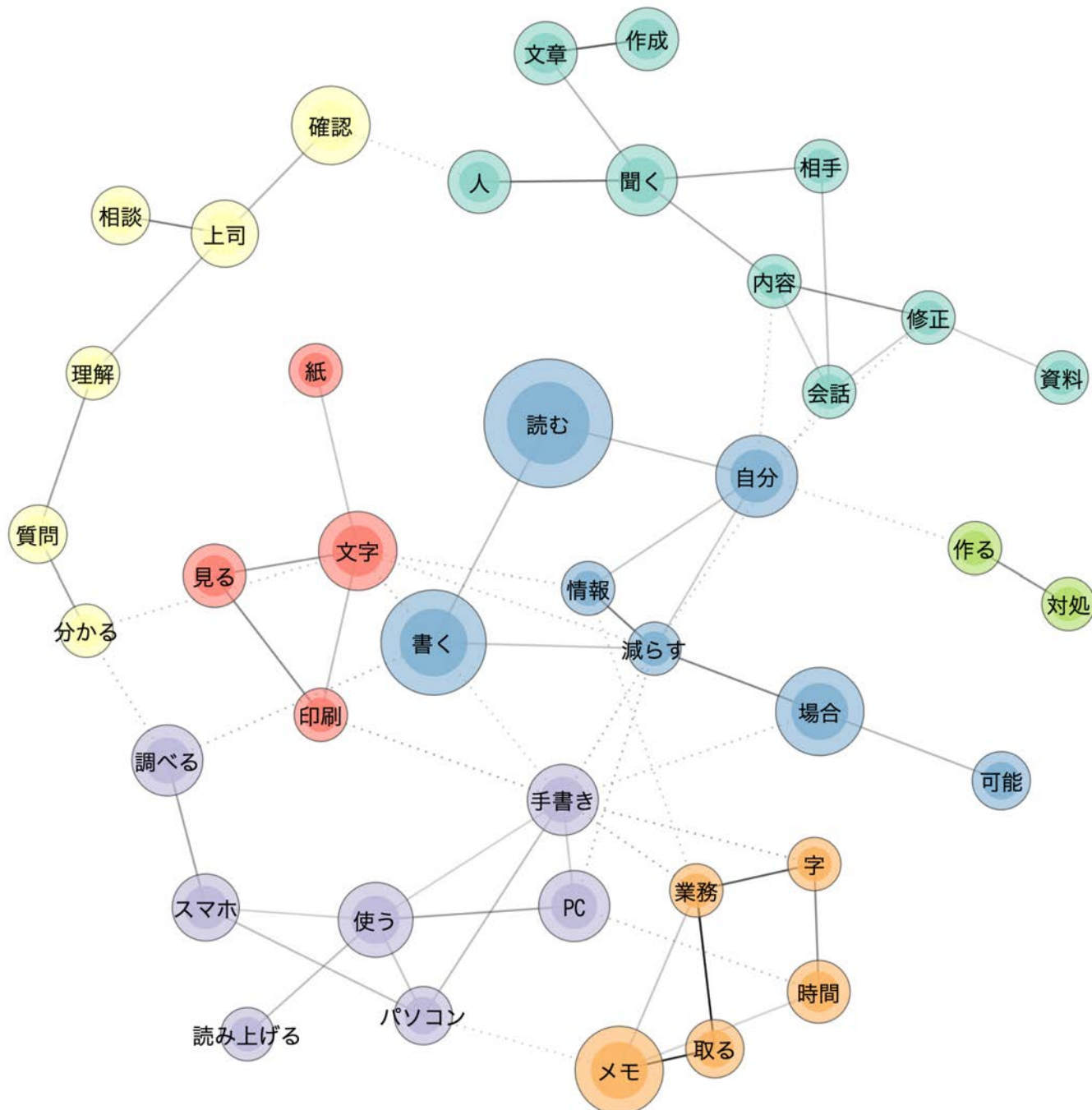
「手書きではなく、タイピングや文字入力に代えさせてもらう」

### ●文章を上司などにチェックしてもらう

「作成した書類の文章などを上司がチェックしてくれる」

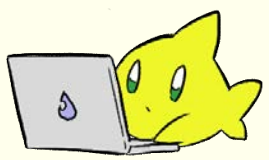


# Q5：仕事上の読み書き困難にどう対応しているか？



## 読み書き困難の自己対処(169件)

- 自分用の手順書やマニュアルを作る  
「実際に作業をしてから、自分にとってわかりやすい手順書やマニュアルを作る」  
「資料を自分の読みやすいフォントに変える」
- 読みづらさへの工夫  
「読む部分以外を隠したり、リーディングトラックで一度に目に入る情報量を減らす」  
「指でなぞりながら読む」
- 手書きを減らす  
「手書きをできるだけ避けてパソコンやスマホを利用する」  
「PDFファイルにタイピングで入力する」
- 漢字はひらがなで書くか、検索する
- 音声読み上げソフトを使う
- 同僚や上司に相談する  
「ある程度自分で取り組んでから同僚や上司に聞いたり、相談する」  
「修正すべき点があるかを聞く、チェックしてもらう」



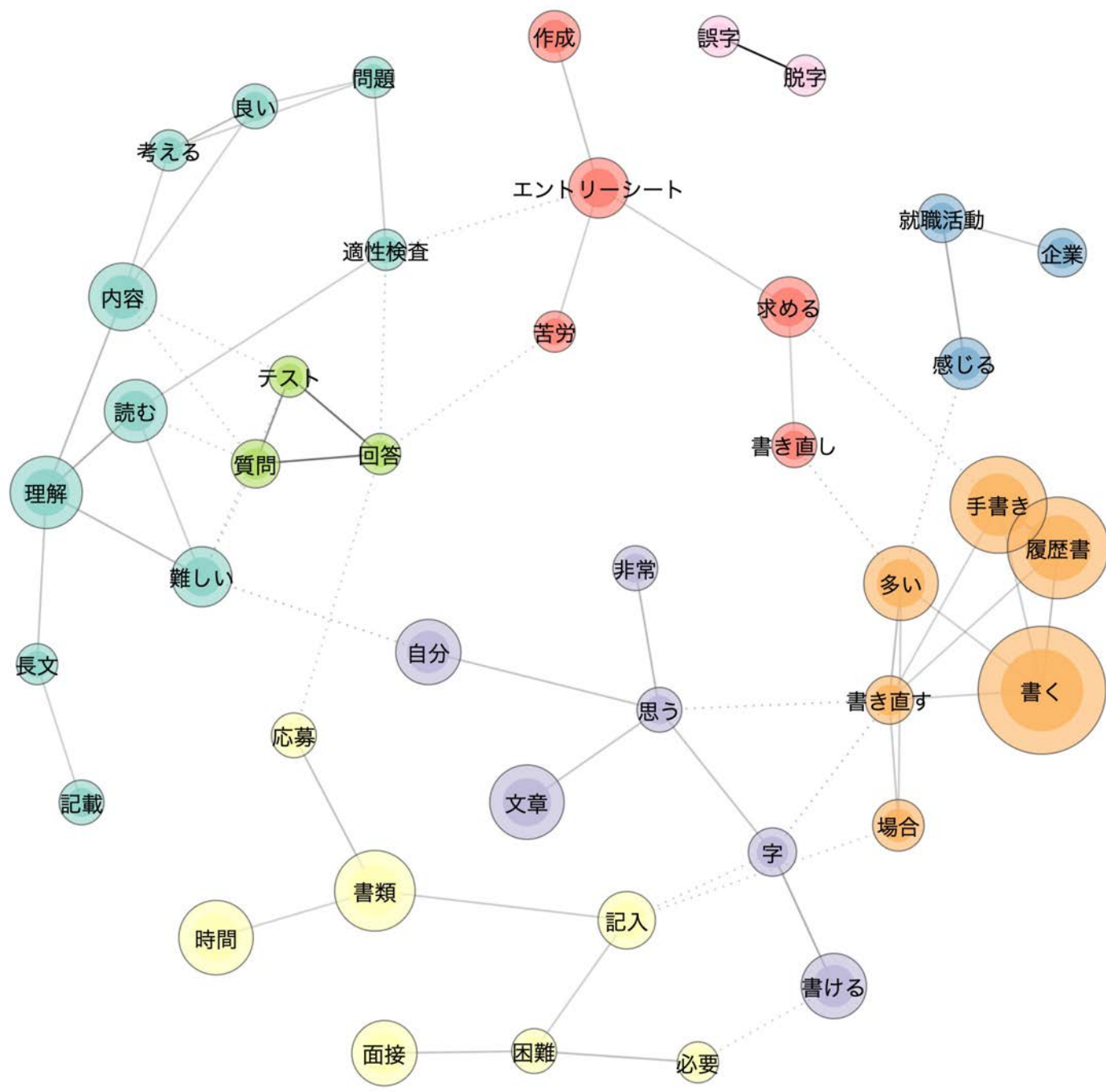
## Q6：就職活動や採用面接での困難は？

発達障害のある就業者のうち、、、

- 就職活動や採用面接で読み書き困難を感じた割合は **20.0** % (128人)
- 就職活動や採用面接で読み書き困難に対して合理的配慮を受けた割合は **2.5** % (17人)
  - 手書きが求められる書類をパソコンで提出することの許可
  - 宛名書きを他の人に書いてもらう



# Q6：就職活動や採用面接での読み書き困難の状況は？



## 読み書き困難の詳細(122件)

### ●手書きの書類提出を求められる

「手書きで履歴書やエントリーシートを書くことが求められて、文字がうまく書けない」  
「誤字脱字など書き間違いが多くて履歴書を何回も書き直さないといけない」  
「綺麗な字を書くことが難しい」

### ●文章作成が難しい

「面接など口頭でのやりとりなら大丈夫だが、文章化が難しい」  
「魅力のあるエントリーシートの文章を考えることが難しい」

### ●面接を受ける前に終わってしまう

「書類に時間がかかったり、汚くて、面接選考まで進まない」

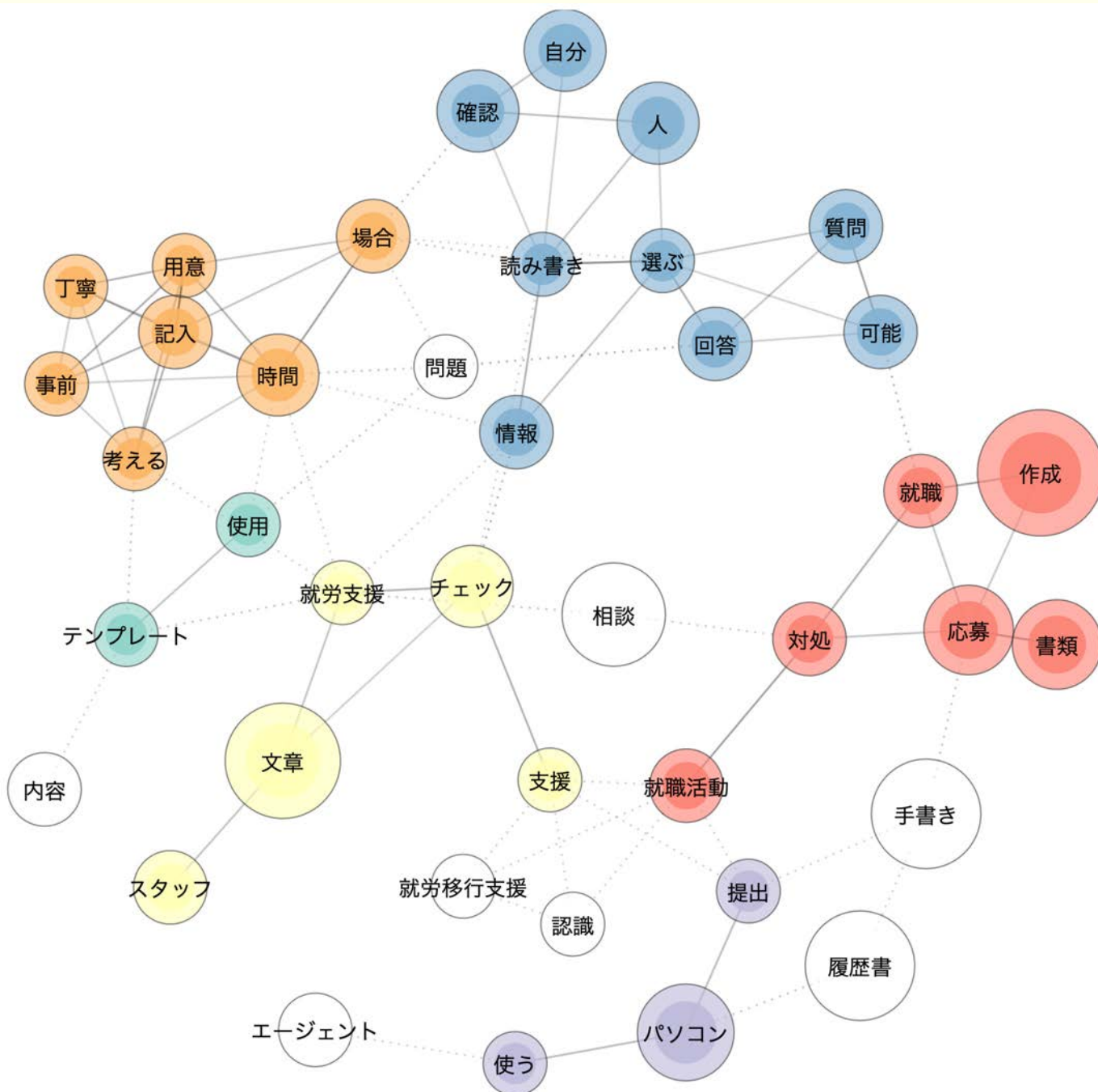
### ●適性検査が苦手

「適性検査の時に筆記が求められ、設問の微妙な表現の違いに気づけず、対応できない」

### ●企業の情報を読み込むことが難しい



# Q6：就職活動や採用面接での読み書き困難の状況は？



## 読み書き困難の自己対処(131件)

- 手書きの書類を指定する企業等を避ける  
「手書きの履歴書を要求される求人には、そもそも応募しない」  
「電子作成可能なところ以外は就職先の選択肢に入れない」
- 書類のデータ提出  
「なるべくWEB入力やWordを利用して、文章作成して送信する」
- パソコンで印字して印刷提出  
「パソコン作成の履歴書をしれっと提出した」
- 時間をかけて書類を作成する  
「時間をかけて丁寧に記入する」
- 適性検査で長くかかるときは次の問題をやる
- 適性検査で「どちらでもない」を選ぶ
- テンプレート文を活用する
- 就労支援のサポートを受ける  
「就労移行支援の指導員に添削をしてもらう」  
「転職エージェントを利用し、うまく手直しをしてもらう」





# Q7：職種によって読み書きの困難は違う？

- 「**研究・技術の職業**」に就いている人は「A：読解苦手」の得点が低い
  - 読んで理解することに困難を感じず，読むことの苦手意識も少ない人
- 「**法務・経営・文化芸術の専門的職業**」に就いている人は「D：書字・書き取り苦手」の得点が高い
  - 読みやすい字を書くことが難しく，文字を書くのに苦手意識がある人
- 「**保育・教育の職業**」「**事務的職業**」「**製造・修理・塗装・製図等の職業**」に就いている人は「C：読字困難」の得点が高い
  - 仮名文字，漢字問わず読み間違いを多く経験する人



# Q7：職種によって読み書きの困難は違う？

項目	人数	平均値(標準偏差)
研究・技術職 該当 - 現在の「A：読解苦手」	63	2.01 点 (0.82)
非該当 - 現在の「A：読解苦手」	468	2.33 点 (0.74)
大学生標準化データ - 現在の「A：読解苦手」		2.46 点 (0.66)
法務・経営・文化芸術職 該当 - 現在の「D：書字・書き取り苦手」	43	2.63 点 (0.89)
非該当 - 現在の「D：書字・書き取り苦手」	499	2.33 点 (0.82)
大学生標準化データ - 現在の「D：書字・書き取り苦手」		2.05 点 (0.68)
保育・教育職 該当 - 現在の「C：読字困難」	22	1.92 点 (0.78)
非該当 - 現在の「C：読字困難」	516	1.55 点 (0.61)
大学生標準化データ - 現在の「C：読字困難」		1.47 点 (0.46)
事務的職業 該当 - 現在の「C：読字困難」	278	1.44 点 (0.52)
非該当 - 現在の「C：読字困難」	260	1.69 点 (0.69)
大学生標準化データ - 現在の「C：読字困難」		1.47 点 (0.46)
製造・修理・塗装・製図等の職 該当 - 現在の「C：読字困難」	31	1.83 点 (0.70)
非該当 - 現在の「C：読字困難」	506	1.55 点 (0.61)
大学生標準化データ - 現在の「C：読字困難」		1.47 点 (0.46)



# Q8：読み書き支援ニーズと職場適応の関連は？

## 読み書き支援ニーズと組織コミットメント

- 統計的に意味のある相関（関連）は見られなかった

## 組織コミットメントに、あまり関連しない要因

- 年齢、発達障害の診断年齢、仕事開始年齢、転職回数、勤務時間、年収、勤続年数

## 組織コミットメントの高低と関連する要因

- 障害者手帳を所持する人は、「残留・意欲」や「存続的コミットメント」が高い
- ASDのある人は「存続的コミットメント」や「規範的コミットメント」が高い
- ADHDのある人は「存続的コミットメント」が高い
- 就業前に診断を受けた人は、就業時に診断を受けた人よりも「残留・意欲」が高い
- 精神疾患の併存がある人は、「残留・意欲」が低く、「存続的コミットメント」が高い
- 働く前に読み書きの特別な支援を受けている人は、「規範的コミットメント」が高い
- **特例子会社で働く人、職場で発達障害を開示している人、職場で合理的配慮を受けている人は、すべてのコミットメントが高い**



# 就業実態調査に関する意見やコメント（匿名可）



<https://forms.gle/bxTFuo2TNL7vX8rN9>

- ※次年度に調査してほしいテーマなども歓迎しています
- ※質問に個別にご返答することは難しいため、何卒ご了承ください

